

資料3

3 歳児の自我「一人前の時代」

- ・ 自信の高まりのピークの時代

自分を意識できるようになり、何かできた時は「みて！みて！」大人の賞賛を求める歩道の真ん中を歩かず、わざわざ縁石の上を歩いてみたり、いろんなことに挑戦。

- ・ 大人の同じようにふるまえて、人の役にも立てる自分を誇示したくなる
大人の手伝いをする「ボクがやってあげる」



一人前だから役に立ってあげる（一人前を主張する姿）

レストランなどにも一人前の料理を頼んでほしい

自分では着替えをしないくせに「やってあげる」と友だちの着替えを手伝おうとする・・・
ぼくは一人前だから役に立ってあげられるようになった自分を意識し、もう赤ちゃんではなくて、一人前としてあつかってほしいと主張する。（客観的には半人前）

しかし、実際には何もできない。主観的に一人前だけど、力がまだついていかない。

まだ、自分を振り返る力が十分育ってない・・・できないことが多い3 歳児



客観的な目で自分を見つめなおす、新しい視野の広がり

- ・ 一人前になった自分を信じて生命力にあふれたいきいきした姿を伝えることこそ、3 歳児の本来の姿。楽しくてたまらない日々を提供すること
- ・ あそぶ力が充実してきた3 歳児は「寸暇を惜しんであそぶ」ちょっとした時間の隙があるとあそんでしまう。散歩から戻ると、すぐに食事！と思う
- ・ 子どもたちと保育者の気持ちがぴったりと一つになることで生活が充実してくる。例えば散歩のときも列を長くしながら歩くのではなく、雑談をしながら、歩くとみんな聞きたくなって声の届く範囲に集まって来るので列も短くなる

一人前の意識があるが、できないことが多い3 歳児。3 歳児の主観をそのまま受け止める保育者」とであると「分って貰えてる」という信頼感がうまれる。客観だけで理解するとズレが生じ、理解されてないという不安定な精神状態に置くことになる。

- ・ 時には赤ちゃんになったり、できないことをさらしたりしながらも、自分に対する誇りを失わないのが3 歳児です。
- ・ 3 歳児は両面あることを理解して「もはや一人前」と信じてる3 歳児の自我を認めることによって、認められたから背伸びをしてもっとすごいこともできるようになりたいという、自分を育てる力を発揮させたい。
- ・ 一人前意識が尊重されないときには、すねたりいじけたり、反発したりする。遊具をしまう場所をつくるときも、子どもたちと相談しながらつくすることで、片付けにも積極的になる。
- ・ 生活のなかのちょっとしたできごとを拾い上げ、朝の会や夕方の会でみんなに知らせる。例えば「ちかちゃんがトイレのスリッパをきれいにならべてくれた」と話したり・・・もう、一人前だから人の役にたちたい、人の役に立っている自分を認めてもらいたい。そういう気持ちに答えることが3 歳児の誇りに答えることになる。・・・お手伝い活動をはじめていく